

脳神経外科開設

当院では脳神経/脳血管疾患を専門的に診断治療する医師が不在でしたが、本年5月より脳神経外科が開設されました。1989年国立山口大学医学部卒業で脳神経外科専門医である泉原昭文（いずみはらあきふみ）と申します。長年、主に山口県内の自治体公的病院などで脳卒中や頭部外傷などを中心に診療を行ってきました。専門研究領域としては欧米雑誌にも発表したアルツハイマー病にも関連する脳アミロイド血管症による脳出血の病態や破裂脳動脈瘤の疫学など、さらに硬膜下血腫の自然経過や慢性硬膜下血腫の再発などです。一人常勤医師体制なのでまずは外来と健診、そして救急と入院、さらにその後手術も行っていく予定です。

ご存じのように脳神経外科診療では脳卒中や頭部外傷などの症状のある救急疾患への対応が中心ですが、最近の画像診断の進歩により症状のない脳神経/脳血管病変が偶然発見されることが多くなり、診療の重要な部分を占めるようになってきました。またこれは脳ドックという健診システム（頭部MRI・頭頸部MRAなど）の影響が大きいと考えられます。脳ドックは致死率の高いクモ膜下出血の主な原因である脳動脈瘤を未然に発見するという趣旨で、1988年頃より全世界の中でわが国で始まり、主に脳卒中の予防への期待と共に現在広く普及するに至っています。

当院では脳ドックによる脳卒中の予防に特に力を入れていきたいと考えています。また未曾有の超高齢化社会に突入しているわが国では認知症の早期の診断治療が再重要となってきています。最近アルツハイマー病の発症の要因と考えられているアミロイドベータ蛋白を除去できる薬剤が初めて開発され使用可能となりそうであり、今後、脳ドックによる認知症の早期発見も行っていけたらと考えています。



脳神経外科
泉原 昭文



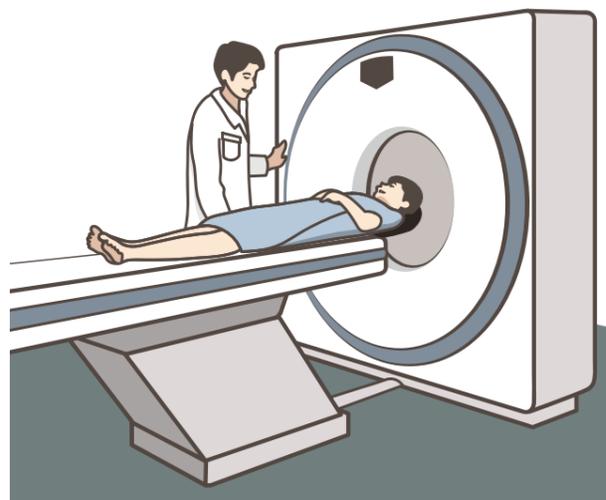
脳ドックが始まりました

昨年9月、当院にMRIが導入されてから当健診センターでは脳ドックの準備を始めておりました。

当時、脳外科医は不在でありましたが、着々と準備を進めていた中で5月に泉原医師が脳神経外科に着任されました。あらかじめ準備を行っていたこともあり同月内に脳ドックを立ち上げることができました。

脳ドックの検査内容として、頭部MRI・頸部MRA・頸部MRAの3種類の撮影を行います。MRI撮影は脳の断面を見る検査で、萎縮や梗塞が分かります。MRA撮影は血管を撮影する検査で、脳動脈瘤の有無や脳動脈が狭くなっていないかが分かります。頸部MRAも同様に頸動脈の状態を撮影いたします。

健康診断の選択の幅を拡げることで地域の皆様の健康をお手伝いできる体制がまたひとつ整いました。昨年の新棟完成による受診環境の改善、脳ドック等新しい検査の造設、受け入れ体制の強化、受診のしやすさを考え努めてまいりました。



現在は、子宮頸がん検査を開始するために準備を進めております。準備が整えば、人間ドックや企業の健康診断と乳がん、子宮がん検診が一日で可能となり利便性がさらに向上することと思います。その際は、また改めてご紹介をさせていただきますので、今後とも越谷誠和病院 健診センターをよろしくお願い致します。

健康管理課 萩原 章

医師紹介

院長 吉永圭吾（よしなが けいご） 外科

外科

外科部長 井出明毅（いで あきたけ）
宮田大士（みやた たいし）
原朋広（はら ともひろ）

整形外科

整形外科部長 大堀正明（おおほり まさあき）
木村和正（きむら かずまさ）
渡邊正智（わたなべ まさと）

脳神経外科 泉原昭文（いずみはら あきふみ）

内科

内科部長 中川 晃（なかがわ あきら） 呼吸器内科
桑原大彦（くわはら だいひこ） 一般内科
本郷進一郎（ほんごう しんいちろう） 消化器内科
箱島 明（はこしま あきら） 循環器科
仲野 堅太郎（なかの けんたろう） 呼吸器内科
松本 純一（まつもと じゅんいち） 消化器内科
尾崎 敦孝（おざき あつたか） 呼吸器内科

泌尿器科

泌尿器科部長 青木 慶一郎（あおき けいいちろう）
菅原 基子（すがはら もとこ）

麻酔科 井上 久（いのうえ ひさし）